安全管理プロジェクト活動報告

徳永 誠　加藤美佐　小山哲夫　佐藤亜矢子 設楽浩明　田中協子　中島綾子
平原実留　降矢久美子　川原藤樹※　小林邦宏※※　川田良暁※※　沼本啓良※※※

物質・生命科学系　※電気電子情報系　※※機械建設系　※※※事務担当

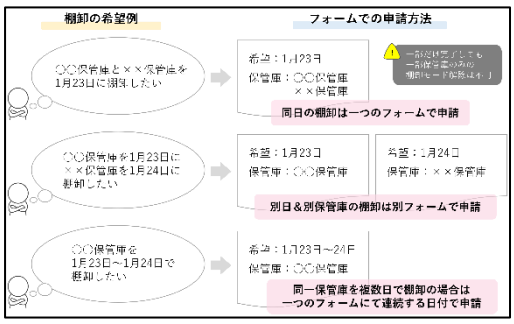
1.　はじめに

本プロジェクトは、埼玉大学の教育・研究現場の安全管理活動を支援することを目的としている。以下に2022年度の主な活動について報告する。

2.　今年度の活動報告

2-1 薬品管理システムの管理・運用支援

総合技術支援センターで対応している、本学で購入した毒劇物薬品の薬品管理システム(IASO)への一括登録に対する支援、IASO に登録されている基本データ（薬品データベースやユーザーに関する基本データなど）の管理、薬品の使用や廃棄の際の IASO 利用法に関する問い合わせなど、従来から支援している事案について、今年度も継続して対応した。年度初めの薬品管理システム説明会は、新型コロナ感染症の拡大以後オンライン配信となったため、その資料作成(修正)を行った。2023 年度には労働安全衛生法や PRTR 法の対象物質の改訂などの法令改正が予定されていることから、改正に応じた薬品管理をする必要が生じた。そのために IASO 導入後初めての棚卸作業を実施することとなり、その実施体制を構築した。また、現在は一元管理されていない高圧ガス容器の管理を IASO で実施することとなり、その準備作業も行った。



棚卸の申請

2-2 安全管理についての情報提供・意見交換

本プロジェクトでは、教育研究機関化学物質管理ネットワーク(ACSES)より配信されている「ACSESニュースレター」の記事から周知すべき事項を編集した、「化学物質の安全管理かわら版」を学内向けに発行している。2022年度はトピックスとして、「労働安全衛生法の改正に伴う化学物質規制の見直し」、「化学物質管理者、保護具着用管理責任者の選任義務化」「化学物質による労働災害防止のための新たな規制」「研究室の安全管理の再確認」などを取り上げた。

今年度は「第10回北関東地区技術系職員安全管理ワークショップ」を第3回以来8年ぶり（新型コロナ感染症の影響で1年中止）に本学主催でオンライン開催し、各大学の薬品管理に対する取り組みなどについて4件の発表がなされた。総合ディスカッションでは、発表内容に関する話題の他に、法令改正に対する各大学の取り組みなどについても活発な議論が交わされた。

2-3 その他の活動

理工学研究科安全衛生委員会の依頼を受けて、「実験・実習　安全の手引」、「研究活動の安全管理ガイドライン」の改訂作業を支援した。また、応用化学科からの依頼を受けて実施している学生実験の安全教育や理工学研究科安全衛生委員会への参加なども継続して行った。

3.今後の展開

私たちは教員・学生を技術面で支援する技術職員として、その経験や知識を生かし、大学の作業現場に即した安全管理活動を支援していきたいと考えている。来年度は改正された法令への対応など、未だに手探りの部分が多く残された課題に取り組む必要がある。このような大きな状況変化に際しては、法令違反や事故を未然に防げるよう、問い合わせを待つだけではなく、積極的な情報提供を心がけたい。